

(様式2)

平成 23 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200299		
法人名	社会福祉法人 長岡三古老人福祉会		
事業所名	グループホーム新組 (東館)		
所在地	新潟県長岡市新組町1890番地		
自己評価作成日	平成23年9月12日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do">http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年10月20日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長岡三古老人福祉会の7か所目のグループホームとして平成21年8月に開設し、2年が経過した。前回の外部評価を受け、地域との交流・つながりという点において、畑作業や買い物などの外出や活動の機会を大切にして、ご利用者の生活の楽しみとなるよう取り組んでいる。また、地域のコミュニティーセンターとの関わりを通じ、地域の祭りやサロンにおける認知症についての講演など参加させていただき情報交換を行っている。地域との日常的なかわりをさらに深め、つながりを大切にしていきたいと感じている。ホームで暮らすご利用者一人一人の思いに耳を傾け、思いを受け止め、安心して生活できるように、また、居心地よく笑顔が溢れるホームを目指して取り組んでいる。介護老人福祉施設中之島が管轄施設であり、職員の研修や行事などは合同で行っている。また、看護職員をはじめ理学療法士や栄養士など様々な職種での連携を図り情報共有を図っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム新組」は、長岡地域で先駆的に認知症ケアに取り組んでいる社会福祉法人が運営している。法人として多数の高齢者福祉事業所を有し、認知症高齢者のためのグループホームも7か所運営している。法人内事業所間、グループホーム間での連携・協力体制も密に取られており、定期的な会議や意見交換の機会や研修体系などにより、法人全体でサービスの質の向上を図っている。

ホームでは、利用者の自主性やその人らしさを尊重し、「生活の場」であることを意識したケア提供に努めている。会議や日々のミーティングで具体的に理念を意識した話し合いを行い、理念の実践に取り組んでいる。利用者一人ひとりへの支援については、センター方式のアセスメントシートを活用して本人の思いや意向、それまでの生活歴や暮らしぶりの把握に取り組み、その人にとって馴染みの深い物事や活動をホームでの生活に取り入れている。お墓参りなど馴染みの場所への外出、刺し子や手芸、浴衣を縫ってもらうなど趣味や特技を生かした活動など、その人らしい暮らしがホームでも継続できるよう支援している。利用者の手作り品は、市社協が主催するお祭りにも出展するなどして、利用者が喜びや張り合いを感じられる場を、ホームの中だけでなく地域社会にも設けられるよう取り組んでいる。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員全員がいつでも見られる場所に理念を掲示し、皆で共有し実践できている。</p>	<p>法人の理念をもとに、職員で話し合いホームの理念を作成した。利用者の自主性を尊重し、「生活の場」であることを大切にホーム作りを目指している。理念は玄関ホール等見やすい場所に掲示するとともに、定例の会議で理念をキーワードに話し合いをしたり、毎年末にケアを振り返る機会を持ち、理念の実践に取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>畑仕事を通じての関わりや地域の行事やお祭り等にお誘いの連絡があり参加している。</p>	<p>建物脇に畑を作っており、畑仕事を通じて隣の方と挨拶を交わすなどの近所付き合いをしている。防災に関して地区会長と情報交換をしたり、平成23年度からは地域のサロンで管理者が認知症ケアについて話をするなど、地域の中にある事業所として取り組みを進めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域のお茶のみ会に声をかけていただき、認知症ケアについてお話させていただいた。今後も回数を重ね交流していきたい。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、ご利用者の状況やホームでの取り組みを報告し、意見をいただいている。地域の民生委員から参加していただき、地域情報を得るなかで地域とのつながりのきっかけ作りにもなっている。</p>	<p>運営推進会議は利用者や家族代表、民生委員、市担当者等の参加を得て2ヶ月に1回実施している。ホームの状況や取り組みを報告したり、行事に参加してもらう等の機会を設け、意見交換や情報交換をしている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に市の職員からも参加していただき、意見や助言をもらっている。市の介護相談員に2か月に1回来ていただき、サービスの質の向上に努めている。</p>	<p>長岡市の担当者とは運営推進会議に参加してもらい連携、情報共有を図っている。また、市の介護相談員から定期的にホームに来てもらい、利用者の意見や要望を聞き取ってもらってホームの運営に反映させている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>本体施設の特養と合同で職員研修を開催し、全員参加することで身体拘束などの共通認識を図れるようにしている。</p>	<p>本体施設である特別養護老人ホームを中心として、周辺エリア内にある法人事業所間での協力・連携体制が構築されており、年間を通じて計画的に研修を行っている。身体拘束に関する研修も必ず実施し、全職員が参加して理解を深めている。利用者の生活におけるリスクに対しては毎月のミーティングで話し合い、身体拘束をしないケア方法を検討して実践している。</p>	
7	(5-2)	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>本体施設の特養と合同で職員研修を開催し、その研修会に全員参加することで虐待防止など理解、支援を学び、虐待に対して意識し、見過ごさないよう防止に努めている。</p>	<p>本体施設である特別養護老人ホームを中心として、周辺エリア内にある法人事業所間での協力・連携体制が構築されており、年間を通じて計画的に研修を行っている。利用者の権利擁護に関する研修も必ず実施・参加し、高齢者虐待防止関連法等について理解を深めている。</p>	
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人内の研修会で学ぶ機会はあるが、現在必要としている人がいないため、必要に応じて活用できるよう支援していきたい。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時の段階でご家族へ説明を行い、理解・納得を得ている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に家族から参加していただき、意見をうかがったり、市の介護相談員から利用者の意見、要望をうかがったり、意見箱を設置したりしている。</p>	<p>家族代表が参加する運営推進会議や家族の面会時等を利用して意見や要望を聞けるよう努めている。家族からは本人へのケアについての希望等が寄せられ、ミーティング等で検討してケアに反映させている。利用者に対しても、日々のケアや活動などの働きかけをしている。間接的にも意見を収集できるように玄関ホールに意見箱を用意し、入居時に説明しているが、なかなか活用されない状況がある。</p>	<p>日々利用者や家族とのコミュニケーションを図り意見・要望の集約に努めているが、意見収集のための多様な方策を実施することで、より一層さまざまな意見を引き出せるきっかけになると考えられる。意見箱の活用について継続的に周知するとともに、アンケートなどの間接的な意向把握の取り組みについて検討を期待したい。また、要望等について家族へフィードバックする仕組みの確立にも期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング時や月1回の全体ミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。また、提案や意見は管轄管理者へも報告を行っている。	毎日のミーティング、毎月のユニットミーティングや全体での会議等の機会があり、勤務体制やその時々課題等について、職員の意見や提案をもとに話し合いを行っている。法人としての検討が必要な課題はエリアの管理者である本体施設の施設長に挙げ、改善につなげている。また、本体施設の職員が定期的にホームで利用者と一緒に昼食を摂っており、ホームの状況を共有して、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜現場の状況を確認し、職員や職場環境等の状況を把握して環境・条件の整備に努めている。職員一人一人の状況に応じた勤務時間等配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本体施設での研修会の他、法人内の研修会や他の研修会への参加の機会を設けている。また、資格取得への支援や自己学習への支援の機会の確保にも努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームや認知症専門棟の職員で月1回会議を設け、情報交換を行っている。また、法人内グループホーム間での交換研修や講義研修を行いサービスの向上を目指している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族、各関係機関から情報もらい、ご本人、ご家族との面談を通して生活状況を把握するように努めている。不安をなくすためにも事前にご家族と共に訪問いただくなど安心を確保するよう関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談し、生活状況、要望、不安などをお伺いしている。施設の見学をしていただき実際の施設の状況、雰囲気などをお伝えしている。その他、関係機関などと連携を図り情報をいただき、参考にしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各関係機関との情報交換や本人、家族からの状況を把握し、職員間、本体施設や法人内の関係機関と相談し、必要なサービスにつなげられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体はご本人であることを常に意識し、出来ること出来ないことを見極めたくうえで、出来ることを活かした生活が送れるように支援している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時にご家族の協力参加について説明し、入居後も受診付き添いや面会時には日常の様子をお伝えしながら情報を共有し、ご家族と共にご本人の生活を支援する姿勢を大事にしている。	入居時のアセスメントの際は家族にもシートへの記入を協力してもらい情報収集を行っている。入居後も受診支援をお願いしたり、面会時には本人と一緒に外出してもらえよう依頼するなど、利用者の生活には家族の協力が不可欠であると捉え、家族とともに本人を支援している。	個別の利用者の様子を家族に定期的・具体的に伝える機会や方法にさらなる工夫を期待したい。日々ホームでどのようなケアを提供しているか等、支援内容やそれに対する利用者の様子なども明確に伝えることで、より一層の信頼関係の構築につながると考えられる。
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物や写真を持ってきてもらったり、友人や知人が来られた際には、お部屋などでゆっくり過ごしていけるようにしたり、写真を一緒に撮ったりと支援に努めている。	利用者一人ひとりにとっての馴染みの場所への外出を支援したり、家族にも本人との外出への協力を依頼している。また、刺し子や編み物など趣味や得意なことをホームでも継続してもらい、長岡市社協主催の「ともしびまつり」に出品し、本人の喜びや張り合いにつなげている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の気の合う関係に配慮し、必要時には職員が間に入り、お一人お一人が活躍できる場面を大事にし、お互いに支えあい生活している事が感じられるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、管轄特養への入所の方へ面会したり、ご家族がグループホーム入居者に会いに来て下さったり、関係の継続が図られている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン見直し時にはもちろん、日々の生活の中で、一人ひとりとコミュニケーションを大切に、希望や意向の把握に努めている。困難な方には、家族等から情報を得ながら少しでも本人本位に近づけるように努めている。	毎日の会話の中で利用者の思いを把握しようと努めている。家族からも、本人の思いを可能な限り聞き取り、利用者の表情や反応など日々の気づきを大切に細部まで記録し、職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にセンター方式一部の記入をしていたが、これまでの生活や暮らし方などをお聞きしている。また、面会時などご家族との会話を通じてお聞きするなどしている。	入居時には、家族にもセンター方式のアセスメント様式を記入してもらい、これまでの生活の様子や習慣、好きなことなどの把握に努めている。家族等の面会時には、エピソードや得意なことなどを聞き取り、その人らしい力を発揮できる場面づくりを支援している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを大事にしなが、出来ることが継続できる支援をしている。看護と連携して心身状態もチェックして現状の暮らしの把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、ご本人、ご家族に生活の意向をお聞きしながら、課題とケアのあり方を話し合い、介護計画に反映させて作成している。	独自の課題分析表を使い、本人と話し合い6か月ごとに介護サービス計画を作成している。3か月に1回モニタリングを行い、大きな変化があれば家族と相談しながら、その都度見直しを行い、介護サービス計画書に反映している。	生活記録は細部までリアルタイムで記載されているが、介護サービス計画に沿う内容が少なく、モニタリングに反映されにくい。実際の支援の内容とその結果がわかりやすいよう記録することで、計画に対応した取り組みを職員間、また、職員と家族・関係者等で共有しやすくなり、次のより良い計画策定に生きるのではないかと、今後の仕組み作りに期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子、状態変化や職員の気づきなどは、個々の記録に残している。また、必要なケアの見直しや、統一事項などはその日のミーティングで話し合い共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出、本体施設との連携した活動に参加したり、法人内で情報交換等をして柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーや商店、地域の行事やお祭りに参加し、少しずつ地域資源を把握し活用している。今後も豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は、これまでのかかりつけ医を継続しながら、必要に応じては医療機関と協力しながら、適切な医療を受けられるよう家族と協力して支援している。</p>	<p>本人と家族の意向に沿い、以前からのかかりつけ医を継続している。体調不良等の場合は併設のデイホームの看護師に相談できる体制が整えられている。原則的には家族が受診の付き添いを行い、その際は健康管理の記録表と状態を記載したメモを手渡し適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の関わりの中で、少しの変化や気づきがあれば、すぐに看護師に連絡、相談できる体制をとっており健康管理の把握に努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には病院関係者への情報提供を行いながら、ご本人、ご家族が安心して治療できるように、又、早期に退院できるようにケースワーカー等と連絡を取り合い、面会などを通じ病院関係者との関係づくりも行っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時にご家族と話し合っており、状態に応じて法人内の多様なサービス機関と連携し、相談させていただくことを基本にしている。ご本人やご家族と充分検討して本人を支えるチームとして共有できるように努めている。</p>	<p>入居時には、契約書と共に急変時の対応や介護の状況が重度化した場合の方針の説明を十分に行い家族等の意向を確認している。利用者の心身の状態に応じて場面ごとに家族等と話し合い、法人内の多様なサービス事業所とも連携・相談しながら、より適切な生活の場の提供や支援に努めている。</p>	
34	(12-2)	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応マニュアル等を整備して周知を図っている。本体施設と共に研修を行い実技を含めて勉強会を行っている。日常的に看護師からアドバイスをもらうことが多いが、定期的な訓練までには至っていない。</p>	<p>併設デイホームの看護師に24時間連絡・相談できるほか、夜間緊急時にはその日の当番職員が駆けつける体制がとられている。本体施設と合同で急変時の研修会を行い、知識を得るように努めている。</p>	<p>本体施設のプログラムにより救急時に関する知識や応急手当の方法などの研修会等に参加しているが、今後はホームの実態にあわせ、利用者の状況などを想定した実地訓練等を行い、実践力をさらに身につけていくことを期待したい。</p>
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を実施しており、消防署の立ち会いでの防災訓練も行っている。今後、地域の方への協力依頼を行っていくところである。</p>	<p>年2回、消防署の立会いのもと火災や地震の避難訓練を行っている。また、月1回、本体施設と合同で防災に関する研修、訓練を行っている。地域との連携の在り方については、運営推進会議でも課題となっている。</p>	<p>本体施設をはじめとして、災害に対する「助け合う」意識は高く、地域の方々にも協力をお願いをしている。現在、具体的な応援・協力体制を検討中であり、今後期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを配慮し、目上の方ということを常に意識して、どなたが聞いても気分を害さない言葉かけや対応を職員全員が心掛けている。	本体施設との連携により、現任・新任の職員ともに研修体系が充実しており、認知症ケアについても学び、その理解を深めている。管理者は、利用者一人ひとりに合わせた声のかけ方、日々の職員の対応について、気になることがあればミーティングを活用し指導している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活でご本人の意見を聞いたり、一緒に考えたり、ご自身で選択できるような具体的な言葉かけ、対応を心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活における時間の流れはあるが、その中で一人ひとりのペースを大切にして、その日の気分や体調、希望に沿った生活を送れるように支援している。職員側のペースで過ごされる方も中にはおられる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や着替えでは、天候や気温に合わせて、希望に添いながら身だしなみやおしゃれができるように心がけている。職員側で決めてしまっているところもある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来ることを尊重し、野菜の下ごしらえや片付けなど職員と一緒にしている。その方に応じて使いやすい食器を利用したり、好みに配慮するなどして、利用者と職員と一緒に食卓を囲み楽しく食事が出来るよう支援している。	利用者の好きなこと、出来ることを尊重して野菜の皮むきや調理、食器の後片付けなどを職員と一緒にしている。畑からの取れたての野菜を調理して収穫を喜び合い、利用者が役割や張り合いを見出せるよう働きかけている。本体施設の職員とも一緒に食卓を囲み楽しく食事ができるように支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内のグループホームと共同して栄養士のアドバイスをもとにバランスのとれた献立作りを心がけている。一人ひとりにあった形態に配慮している。その日によっては量が多い日があったりし、カロリー計算までは行っていない。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをして、一人ひとりの状態にあった口腔ケアを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせて自立支援できるように努めている。	チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握できるように努めている。利用者の仕草や表情から支援のタイミングを読み取り、トイレで気持ち良く排泄できることを目指して支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況をチェックし、牛乳等の飲食物などの工夫や、体操を行うなどし、看護、かかりつけ医との相談など個々の状態に応じた取り組みを行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者が週3回入浴できるよう配慮しているが、時間帯や曜日の希望までは個々にそった支援が難しい状況である。好みの温度に合わせたり、入浴の順番は希望にそえるよう支援している。	入浴は基本的に午後から、毎日一人ひとりに希望を聞いて支援している。毎日の入浴を希望されない場合も、少なくとも週3回は入浴していただいている。希望に応じてデイホームの広い浴室を使ったり、利用者の気分や状況に合わせてお誘いするなど工夫して支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や傾向を把握し、安心して休息できるように環境にも配慮しながら支援している。また状況に応じて個々に対応できるよう取り組んでいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、処方内容のファイルを綴り把握できるようにし、変更や追加があった場合は看護とも協力して、状態等の変化がないか確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を参考にして、役割や楽しみごと等、活躍できる場面を提供するなど支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を意識した外出活動や、日常のスーパーなどへの買い物など気分転換も含め戸外へ出かけられるよう支援している。また、畑仕事に出かけられるようご家族との話し合いをもち、希望に沿った活動が出来るよう支援している。	利用者一人ひとりの希望に添いながら、建物周辺での外気浴や生鮮食材の買い物、畑での野菜作りなど、役割を持って戸外へ出られるよう支援している。散歩にも日常的に出かけ、季節感や自然の音や匂いに触れる機会を大切にしている。本体施設への行事や、利用者から外出希望があった時などは積極的に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つことの大切さは理解しているが、お金を所持している人は少ない。機会は少ないが、お金を持参して買い物した際の支払いができるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば、状況を把握しながら電話等連絡のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では季節を感じてもらえるように、飾り付けをしたり写真を貼ったりと工夫しながら、居心地よく過ごせるように努めている。	リビングの大きな窓からは、遠く広がりのある田園風景や山々が見え、季節の移り変わりを感じる事ができる。建物内部は、温かな印象の木が使われて、季節ごとの花々や行事の写真が飾られている。職員は、音や温度、掲示物の位置など気を配り、落ち着いて過ごせる雰囲気作りに努めている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置や場所を工夫して、気の合った利用者同士や、それぞれが思い思いに過ごせるように努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力していただき、馴染みの物などを取り入れ、安らぎや安心感をもっていただけるように配慮している。何もなく工夫が必要な居室もあるため気持ちよく過ごしていただけるよう努力している。	本人・家族と相談して、使い慣れたもの、馴染みの品物や思い出深い写真等を持ち込んでもらっている。居室での動線にも配慮し、趣味の材料や作成した飾り物、家族から持ち込まれた品々を活かして、居心地良く過ごせる環境作りに努めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることやわかることに関して、できる範囲で自立した生活が送れるように、安全で安心できる環境作りに努めている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					